古城

第　38　号
＝発行者＝
茨城県立江戸崎総合高等学校
同窓会広報委員会
TEL 029-892-2103
＝印刷所＝
倉沢印刷株式会社

ごあいさつ

同窓会長
山岡恒夫
（昭和43年度卒）

会員の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃からの、会員の皆様方の同窓会に対しましてのご協力に心から感謝致しております。

江戸崎総合高等学校は、輝かしい歩みを続けております。本年度も茨城大学へ進学者が出て、同窓会給付型奨学金を贈ることが出来ました。

部活動も素晴らしい足跡を残しました。農業クラブをはじめとして、馬術部、弓道部、演劇部などが県大会で活躍しました。

茨城県は常陸の国風土記に、「国広く、山もはるかに、田畑は肥え、広野に拓けたよき国である。海山の幸に恵まれ、人々は安らぎ、家々は満ち足りている。田を耕し、糸を紡ぐ者たちには、貧しきものはない」。奈良時代の人の理想郷「常世の国」は「常陸」だったのではないかとまで書かれています。

信太の郡（稲敷郡に相当する地域）榎の浦の津がある。ここに駅家が設置されている。東海道の本街道で、常陸の国に入る街道の入口である。したがって、伝駅使い達は、初めてこの国に入ろうとする時には、まず口をすすぎ手を洗い、東を向いて香島の大神を拝し、初めてこの国に入ることが出来るのである。

稲敷地方を横断する圏央道も、平成二十七年六月には、東関東自動車道とつながり、二十八年度中には西側の未開通区間が開通します。

これまでは関西・東京を見て、成田空港から帰国していた外国人観光客が、牛久大仏や阿見のアウトレットに立ち寄るようになり、牛久大仏は茨城県で外国人に一番人気のある観光地になっています。また、県内の工場立地件数や面積も全国第一位になるなど、圏央道の開通によって稲敷地方は今後大きく開けていくものと思われます。

こうした恵まれた条件を生かし、私達の地域を一層飛躍させていく為には、その礎となる「人づくり」、すなわち「教育」が最も大切であると考えております。江戸崎総合高等学校の果たす役割も、更に重要になっていくものと思われます。

会員各位の、各方面での今後ますますのご活躍と、母校の発展と飛躍を祈念致しましてご挨拶といたします。

同窓会名簿の発行を予定しています。

会員名簿は、学年ごとの横のつながりだけではなく、同窓生という世代を超えた縦のつながりをも発展させていくための、大切な同窓会活動の一環で、定期的な整備・発行が必要です。ぜひ皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

◆事業内容

＊　統合十周年記念版　同窓会名簿発行

＊発行予定日　平成二十八年十二月下旬

＊収　録　者　江戸崎高等学校・江戸崎西高等学校及び江戸崎総合高等学校の創立から現在までの恩師を含め、同窓生約二五、五〇〇名

＊掲載項目　氏（旧姓）名・〒・現住所・☎・勤務先・☎

＊　名簿発行までの作業
（平成二十八年三月～平成二十八年十二月）

・全会員へ確認はがきの送付による調査（電話等による確認作業を含む）　・住所未確認者の調査
・名簿作成専用ＨＰの開設　・名簿案内（振込用紙）の送付　・賛助広告募集のお願い
・ご購入者へ完成名簿の送付

◆要　領

名　簿　購　入　一冊　四、五〇〇円　※予約限定出版

名簿作成賛助金　一口　一〇、〇〇〇円
＊ご協力者には名簿を1冊進呈いたします。
＊巻末の芳名録にご芳名を掲載いたします。

※　三月中旬頃から随時確認用のおはがきを発送いたします。

新たなステージへ

校長
石橋　昇

同窓会の皆様には日頃より本校の教育活動に多大なるご支援をいただき誠にありがとうございます。

校長としての在任期間もあと四ヶ月に迫り、校長室から眺める前庭の銀杏は、二年余りの歳月を感慨深く思い起こさせます。

さて本校は昨年度、総合学科として創立十周年を迎えました。現在、自然科学・人文科学・グリーンテクノ・メカニカルテクノ・福祉系列と五系列で、特色ある教育活動をおこなっております。現代の日本は、超高齢社会と少子化の中で、高等学校教育も大きな変革を求められ、我が校でもこの十一年間を振り返り「総合学科教育」の成果と課題を検証すべき時期を迎えていると思います。『高等学校教育の質の保証』『生きる力』がこの改革のキーワードですが、基礎・基本を徹底した上で、思考力・判断力・表現力を如何に身につけさせるか。受動的な「学び」ではなく、主体的・能動的な「学び」を如何に構築するか。そして生涯を通して「学び」続ける人間を如何に育成するか。大きな課題となっております。

まず本校の現状を分析し、現実的に出来ることから小さな一歩を踏み出し、生徒の為になる事を弛まず継続していくことだと思います。

最後に、本校は稲敷郡市に存在する唯一の県立高等学校として、地域と共に歩み、地域に有為な人材を輩出し続ける責務を負っていると痛感してまいりました。今後とも、会員の皆様方には本校が地域に根ざした高等学校として、歴史を踏まえ更なる発展が見られますよう、ご支援・ご協力をお願い致します。

付記　この文章を作成中に、茨城大学工学部機械工学科へ一名推薦入試で合格致しました事をお知らせ致します。

「生徒諸君に期待します」

副会長
徳田好廣
（昭和43年度卒）

当時は生徒数が千五百名、職員も八十名を超える大所帯、県下でも数少ない大きな体育館が竣工し、雨模様の中で入学を許可されたのを覚えています。

私は剣道部に所属し三年間を辛くも充実した高校生活を送らせて頂きました。今、振り返ってみると、あの三年間の高校生活が私の人生を左右したと思います。

当時、剣道部は県下でも屈指の強豪校で、先輩達の活躍には目を見張るものがありました。私共も、一年生の時から三年間、関東大会に出場したり、インターハイも二年連続出場、三年次だけ、全国大会は逃しましたが、県外にも出て、多くの経験を踏ませて頂き、今でも感謝しています。

私は、剣道を生かしたいと考え高校教員の道を選択しました。母校勤務も含めて二十八年間、教員生活を全うし、今、原稿を書くに当たって、高校時代に剣道と良き恩師に巡り会うことによって今の自分があるのだと思いつつ、自らの来し方を振り返っているところです。

同窓会では、現、山岡恒夫同窓会長との出会いがありました。卒業してから立場は違えど、母校、統合存続のため、新しい学校作りに一緒に関わることができ、高校再編に当たって、山岡会長なくして江戸崎総合高等学校の存立は有り得なかったことを、当時、現役で本校に勤務していた私から伝えておかなければなりません。

会長は、「学校は生徒の活動が何より大事、そのできる限りの支援が同窓会の役割だ」と話しています。

卒業した母校のために、力を尽くせることは、何よりも幸せだと常に情熱を持って語っています。何よりも生徒諸君への願いは、本校で思う存分活動して欲しいということだと思います。

江戸崎総合高等学校の益々の発展をご祈念申し上げます。

私と江戸崎西高校

監事
岡田　守
江戸崎西高等学校
（昭和50年度卒）

私が江戸崎西高等学校に入学したのは、昭和四十八年四月で、その時初めて全学年の生徒が揃った年でした。

西高までは、自転車通学をしておりましたが、まだ美浦トレセンの造成工事が始まったばかりで、行き交う工事車両のタイヤで踏み固めた轍を道路替わりにして通学したのを思い出します。

本当に思い出が詰まった三年間だったと、昨日の事のように記憶が蘇ります。

その西高も平成十九年三月に閉校となり、学校前の道路を通過する度に少しずつ朽ちていく校舎を見ることは、何とも忍びなかったのですが、その跡地に「いなほ消防署」が建設され、来年度からは稲敷市役所新庁舎が開庁となります。

旧江戸崎西高等学校の敷地活用により、また賑わいを取り戻す犬塚地区となることを

期待したいと思います。

思い出

参与
渡辺　通
（昭和38年度卒）

私は、卒業した年の昭和三十九年四月から、母校に勤務する事になりました。最初は生徒の延長のようで先生方には迷惑をかけました。

農業科から始まり、畜産科、園芸科、生活科と生徒数も徐々に増えていき、実習助手の数も増えて各専門になり、園芸所属で露地野菜と施設野菜の担当になりました。そのうちに施設野菜が担当になり、キュウリを栽培しました。続いてマスクメロンも栽培し始めましたが、なかなか栽培が難しく、思うように出来ませんでした。それでも少しずつ慣れてきて栽培が出来るようになっていきました。

そして、水耕栽培も始めましたが、これもメロン栽培と同じく難しいもので、なかなか良い物が出来なく、経験を積み重ねていくうちに何とか良い物が収穫できるようになりました。そのうちに園芸科担当から畜産科担当に移り、鶏の管理を任されました。

その後、美浦養護学校に転勤となりましたが、江戸崎高校での経験を生かして、作業に従事することが出来ました。江戸崎高校での日々すべてが懐かしい思い出です。

「雑感」ひとりごと

江戸崎支部長
本橋洋一
（昭和41年度卒）

今年の十一月、市役所で或る会議が開かれた。資料に目をやると稲敷市の八年間の就学前児童数が記されていた。平成二十年度が二、三三九名で平成二十七年度が一、五一四名あった。八年間で八百二十五名の減少である。驚きと大きな不安が錯綜した。

稲敷市が合併以来十年間で六千名以上も人口が減少している事は知ってはいたが、問題はその進行が止まらない事である。そしてこの流れは、他の多くの市町村でも同じ問題を抱えている。これが時代の潮流なのかもしれない。

私の家に一枚の絵がある。私の子供の頃の写真を絵にしたものだが、当時は自然が豊かで生命が満ち溢れていた。あの環境は二度と戻っては来ない。実に寂しく感じる。

人間の価値は、人々にどう尽くしたか、社会に何を貢献したかにかかっている。

私もこの地に育てられた恩返しとして、また生きてきた証として精一杯努力をし稲敷市に貢献したいと考えている。

ゆず（柚子）と友に五十年

沼里支部長
宮本博文
（昭和38年度卒）

昭和三十八年、文化祭の前に、先生へ柚子の苗を注文しておくと、文化祭当日、学校帰りに苗を渡してくれたのを思い出しました。

その苗を自宅に植えたところ、木は大きく育つのですが、何年経っても実が生らないので諦めていると、十八年くらい経った頃、柚の木を見上げると三個ほど実が生っているのを見つけました。

「柚子の大バカ十八年」と言いますが、本当なのだと感心しつつも、嬉しかったことを鮮明に思い出します。

今日では、接ぎ木ですぐ実が生るのですが、当時は実生の苗だったので実が生るまで長期間を要したのだと思います。その後は毎年、生るようになり今では数え切れないほど実が生っております。

また卒業当時は、地区の行事等の日時が決まっていて、休日とは限らずに行われていました。私の地区の中で会社勤めの人は、私一人だけだったので、会社を休んで行事に参加するのが大変だった事を思い出します。

何度か会社を変わりましたが、柚子の実が生りはじめる五年くらい前から定年を迎えるまで同じ会社に三十年間、勤めることが出来ました。

定年後、犯罪を犯してしまった青少年の立ち直りを助ける為に保護司として活動しています。そんな私のモットーは「約束を守る」ことです。

文学世界への誘い

中島誠一
（昭和45年度卒）

江戸崎高校を卒業して、すでに四十年余になる。かつての木造校舎で学んだ日々を懐かしく思う。

山脇了先生は、現代国語を教えて下さった。島崎藤村の『初恋』や『小諸なる古城のほとり』の心地よい調べ、夏目漱石の『こころ』や武者小路実篤、中島敦の小説にも門戸を開いて下さった。思春期特有の悩みにも真摯に向き合って下さる方だった。ダルマストーブの温もりをいつも肌に感じる方だった。

図書室にはいつも司書の永山雪夫先生がいた。兄貴のように生徒に接して下さる事が嬉しく、昼休みには図書室の常連だった。ドストエフスキーやトルストイ、ヘッセやイプセンなど、外国文学にも目を向けさせて下さった。

パールバックの『大地』やエミリイブロンテの『嵐が丘』など、寝る間も惜しんで読みふけった。スケールの大きさ、人間の普遍性など、心に染み入るものがあった。文学の世界への誘いは、今でも道標としている。

農場で働いて

水野裕史
（平成19年度卒）

私が、江戸崎総合高等学校を卒業して早十年が経ちました。現在は、母校の農場で作業員として従事しています。作業員の仕事は、栽培だけではなく、農機具の扱いや農場全体の管理、生徒が快適に実習が出来るようサポートするのが仕事であります。一日一日すべてが勉強です。

現在農場では、カボチャ、シクラメン、シャインマスカットを特に力を入れています。私はここ二年間、シャインマスカットの勉強をしています。シャインマスカットは、種が無く皮ごと食べられて人気が高いことから、県の推奨品種として扱われています。シャインマスカットが、江戸崎カボチャのように江戸崎総合高等学校のブランド品となるよう生徒達と共に日々努力しています。その甲斐あってか、地元の方々の認知度も上がり、販売前から問い合わせが殺到しています。また、シクラメンも毎回、即日完売の人気です。その他、梅や梨、野菜等も地元の人達に大変好評です。また、食品加工コースでは、第六回稲敷市揚げ餅自慢大会で準グランプリを獲得することが出来ました。ラジオやテレビの取材も受けました。

これからの農業は、栽培だけではなく、加工等の創意工夫によって付加価値を付けることが求められると思います。今後は、食品加工にも力を入れ、地域の人達に益々愛されていく、江戸崎総合高等学校ブランドの商品開発が出来ていければいいと考えます。

同窓会誌にあてて

橋口正
（平成23年度卒）

私は平成二十四年の三月に江戸崎総合高等高校を卒業しました。そして、四月には日本大学生産工学部に入学し、現在はその大学生活を終えようとしており、大学院進学のための勉強をしています。自己紹介はここまでにして、今回は私がいた時の江戸崎総合高校の三年間の生活や生徒の印象的なことを振り返りながら、教育実習を通して印象に残った江戸崎総合高校について書いてみたいと思います。

私がいた時の江戸崎総合の三年間の生活の中で一番印象的だったことといえば、毎日教室で友達と一緒に夕方まで長い時間話をしていたことです。内容自体は本当にたわいのないもので、学校生活の不満、友人関係についての悩み、将来の夢や不安を語り合ったり、恋愛の話をしたり、それから先生に対する悪口などもありました。その頃の自分たちはこういった語り合いの時間こそが一番のストレス解消であったのは間違いありません。一方で、生徒たちの印象といえば、自発的にいろいろなことに努力をして、成果を残したという印象がありました。例えば、スポーツの全国大会で優勝した生徒や大学で特待生に選ばれた生徒、大学生でも務めることが難しい上場企業へ勤めている生徒などがいます。彼らは、高校の三年間で本当に努力したからこのような成果を残せたのだと

思います。

次に教育実習を通して一番印象に残っていることは、教室全てにエアコンが完備されていたことです。つい四年前までは夏休みの限られた教室でしかつけられないエアコンが平日の授業で常時つけられるとは思ってもいませんでした。一方、生徒に関しても昔とほとんど変わらない、明るく元気でいつも笑顔の生徒が多いのはとてもうれしかったです。また、私は高校の時は特進のクラスで他のクラスの様子を知る機会はなかったのですが、今回の実習で人文、グリーン、メカ、福祉の教室を見学することで生徒らがどのような専門科目を勉強しているのかを知ることができたのは本当に良かったです。

ここで改めて、教育実習を受け入れてくださった石橋校長先生、二人の教育実習生を監督してくださった大塚先生、クラス担当の石澤先生、指導教科担当の藤曲先生、授業見学や研究授業でアドバイスを下さった先生方にはこの場で謝辞を述べさせていただきます。また、教育実習中に関わった生徒の皆さんに関しては、本当に明るく接していただいて何度くじけかけた心を救われたのかわかりません。関わった生徒一人一人がこれからどのような進路を行くのかはわかりませんが、後悔の無いように頑張ってください。それではまたの機会にお会いしましょう。

最後に、母校である江戸崎総合高等学校の生徒の皆さん職員の皆さん、そして同窓会会員の皆様方の今後益々のご活躍をお祈り致します。

教育実習を終えて

相原利恵
（平成23年度卒）

緊張や不安、楽しみな気持ち、いろいろな感情が入り混じって始まった母校での教育実習は、あっという間でとても充実した日々でした。

私は高校時代に江戸崎総合高校の先生方と触れ合って、自分も教師になりたい！と強く思うようになりました。夢のきっかけになった場所で教師になるための勉強ができるということは、とても幸せな思いでした。

体育実技の授業においては、生徒個人のレベルに合わせた指導とアプローチの仕方が重要であること、広い活動範囲内をいかに自分が動き回り生徒をよく見られるかどうかが授業の良し悪しや安全管理にも直結していることを学びました。四人の体育の先生それぞれの多様なやり方を間近で見させていただき、そのクラスの特徴に合わせて工夫して教師側が柔軟に変わる、対応していくことの重要性を感じました。保健の授業では、生徒に何を一番学びとらせたいか、それをどう伝えるか、生徒の興味を引き立てる話力や構成上の工夫など、考えなくてはいけないことが尽きずにとても大変でした。

しかし同時にそれはとても楽しく有意義な時間でもありました。私は最初の授業では伝えたいことが溢れてしまい、的を絞ることが出来ませんでした。よって生徒の視線に立ち、何が重要なのかわかりやすく授業を作っていこうと心がけました。授業づくりの大変さ、面白さを知って、もっともっと生徒が面白いと感じる授業が出来るようになりたいと強く思いました。

この場をお借りして、指導教官、体育の先生方、生徒の皆さん、ご指導をくださいました全ての先生方に最大の感謝を申し上げます。

江戸崎総合高校の先生に憧れて抱き始めた夢は、今では私の大きな決意へと変わっています。それは、生徒との触れ合いの中で生まれた多くの感動があったからです。とても素直で心の優しい生徒達と過ごした時間は、私にとって毎日学びの連続であり、成長のきっかけをもらえていたように思います。「必ず良い先生なってね。」という生徒の言葉を胸に、今度は本当の先生としていつか江戸崎総合高校に帰れるよう励んでいきます。最後に、同窓会の益々のご活躍をご祈念致します。

統合10周年記念版名簿発行のお知らせ

このたび、江戸崎高等学校と江戸崎西高等学校の統合10周年を記念し、同窓会名簿を発行する運びとなりました。
同窓生の皆様には、名簿掲載内容の確認はがきや名簿購入の案内状を発送して作業を進めてまいりますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

●名簿発行日：平成28年12月下旬
●体　　裁：A4判（約470頁）
●名 簿 価 格：4,500円

名簿作成業務先

このたびの名簿作成は、正式な同窓会事業として株式会社サラト（本社：土浦市）に委託しております。
株式会社サラトのホームページ http://www.salat.co.jp

校内だより

第五回江陵祭

特別活動部長　吉田　健介

十月三十、三十一日の二日間にわたり江陵祭が開催されました。一昨年は台風のため一般公開が見送られ、実に四年ぶりの一般公開でした。

一日目は体育館ステージで校内発表会を行いました。各クラスがこれまで練習してきたダンスや漫才、そして映像作品など様々な発表で全校生徒が盛り上がりました。

また実行委員企画としてイントロクイズを行いました。

二日目は一般公開となりました。各クラスの企画が描かれている垂れ幕が校舎を彩り、模擬店企画は大盛況で多くのクラスが完売となりました。ロータリーに造られた特設ステージでは、のど自慢大会、吹奏楽部発表、有志の発表と続き、多くの観客を大いに盛り上げてくれました。

今回の文化祭では、たくさんの生徒が実行委員となって文化祭を運営してくれました。二年後の一般公開でも、このような生徒の活躍が見られることを期待しています。

伝統校の一員として

生徒指導部長　石塚　武志

今年度新たに生徒指導主事の大役を仰せつかり、緊張感と伝統校の職員としての誇りを胸に、日々生徒の生活指導に当たっております。

教育界では長らく「不易と流行」と言葉がキーワードとなっています。変わらない、変えてはいけないものとして、卒業生の皆さんの温かい人柄や母校愛があり、情報技術の発達や高速道路の開通が流行に当たると思います。

変わらない本校の伝統と、変化が予想される生徒達の将来。この二つを三年間の教育活動の中でしっかりと生徒に理解させ、どのような時代であっても人間味と母校愛を忘れず、社会の変化に対応してたくましく生きていけるよう指導に当たりたいと思います。

これからも同窓会の皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

進路状況報告

進路指導部長　仁林　拓也

平成二十七年度　進路状況

主な進学先	主な就職先
茨城大学	新日鉄住金
明治大学	紀文食品
筑波学院大学	クボタ
つくば国際大学	キヤノンモールド
川村学園女子大学	東洋シヤッター
江戸川大学	DNPデータテクノ
流通経済大学	フジシール
千葉経済大学	王子コンテナー
県立農業大学校	江戸崎カントリークラブ
県立土浦産業技術学院	城東テクノ
宮本看護専門学校	京阪セロファン
他九校	他十一社

（平成二十七年十二月十日現在）

本年度の進路状況をお知らせします。十二月十日現在で、進学希望者八十五名中、茨城大学の合格者一名をはじめ大学十五名、短大二名、専門学校五十五名が合格しています。今までの結果を検証して、これからの進学指導に新たなる力を入れていきたいと考えています。就職希望者は、八十八名中七十七名が内定を得ています。景気の上昇と人材不足が追い風となり、バブル期並みの求人倍率となっていますが、やさしい採用とはいきませんでした。しかし、基礎学力向上に力を入れてきた為、学力不足で不合格になる生徒はいなくなりました。

最後に、同窓会の皆様の益々のご活躍を祈念すると共に今後もご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。

『つながり』を求めて

福祉系列主任　檜垣　健一

福祉系列の檜垣です。今年四月より常勤講師として就任致しました。去年までは介護の現場にて、介護福祉士として働いていました。高齢者の方々や、障害を持った方々との生活中心でしたが、もともと教員になりたい理想があり、縁あって今に落ち着いています。福祉講師として、生徒たち、教職員のみなさんとの関わりは毎日が新鮮で、自分が学生に戻ったようで学ぶことばかりです。微力ではありますが、生徒の学校生活が少しでも心温まるものになるよう支えて参りたいと思っております。今年一年の出来事を載せてみました。

・三年生、二年生の介護実習

学校の授業とは異なり、実際の介護現場においての実習は体験を通じて、初めて観て・聞いて・話して・触れて、理屈ではない多くの事を体感し、経験に変えていけたと思います。ご高齢の方々、また、その生活を支えるスタッフとのつながりがありました。

・ボランティアマインドを持った同志との出会い

「困ったときにはお互い様、無条件で援助・支援それが私達のポリシー」の気持ちを持った仲間たち、先生方と出会いました。この江戸崎総合高等学校の底力を感じました。登録メンバーも百名を超えています。様々な企画やイベントに協力いただいています。

・特別支援学校においての学校間交流

生活にハンデを負い支援を必要とする同年代の仲間たちと一時ではありますが、時間を共にさせていただきました。交流が目的の伺いでしたが、支援学校の皆さんにいただくもの・事が多く、心洗われるひとときでした。後に生徒に感想を伺うと、この経験が今までの自分に足りない物を埋めてくれた様子で、言葉に詰まり涙する生徒もいました。

・文化祭に向けての展示

季節によって変わる介護教室周辺の装飾品の作成

コミュニケーション手段として取り組んでいるのが物をつくる、描く、工夫するといっ

た言葉や文章ではない絵画やクラフト作品。生徒一人一人異なる感性を「感じ、考え、表現し、観てもらう」。そこから生まれる物や事は何か。授業公開の時、全国から参加された沢山の先生方が驚きや笑顔で展示作品を写真撮影されてたことが印象的でした。

・茨城県常総市災害支援

ボランティアマインドを持った同志たちが奮い立ち、学校を動かしました。一回目五十名、二回目四十名の参加でした。災害にあった現地の様子を目の当たりにして、多くの生徒が言葉を失いました。

河川決壊場所ではただ立ち尽くすことしかできず、自然の猛威の前に人間の無力さを感じました。泥まみれになって酒蔵の泥の撤去を行った皆さん、細かい作業でもいやな顔一つもせずに、むしろ笑顔を振りまいてくれた皆さん、一生のつながりを得ることが出来ました。

・三年生の進路

人として独り立ちをしていく、自分と向き合わなければならないときです。その過程で多くの事にぶつかり、自分の未熟さに気付き、葛藤し、悩み・考え、社会で生きていく術を身につけ学んでいきます。進路を決めなければならない時期に、夢を持っている生徒、自分と向き合い葛藤している生徒たちと出会い、応援させていただきました。

これからの世の中は安定だとはとても言えません。その中で社会に旅立つ若者は多くの人・事に揉まれながら自分をつくり・文化を継いでいきます。学校生活においてチャレンジする経験を通じて、たくさん転んで自分の足で立ち上がること、踏ん張ることを覚えることが大切かと思います。立ち上がるには沢山の方の支えが必要だと気付くんですね。私も相変わらず転んでばかりですけど・・・。

今後もどうぞ宜しくお願い致します。

各年次だより

「リフレッシュ1年次」

一年次主任　油原　一郎

江戸崎総合高校としての十周年を終え、今年度は二十周年に向けてのスタート年度となりました。一年次は担任五名全員が、本校では初めての担任を持つという新鮮で活力ある学年団となりました。また、一年次の生徒たちも勉強に部活動にがんばっているものが多く、次の江戸崎総合高校を担っていける立派な人材だと思っています。

このような生徒たちをどのように育てていくかが我々教員に課せられた毎年の課題となるわけですが、本年度は石橋校長のもと、「職場体験（インターンシップ）」を一年次生全員に対して二日間行うことにしました。本校は総合学科の学校であり、その中で教科「産業社会と人間」を学んでいます。働くことを直に学べる職場体験は「勤労観」を養い、また地元企業を知る上で大変有意義な学習の機会になると考えています。学年全員に「職場体験」を実施するには、先生方の労力もかなりのものになりますが、何よりもたくさんの職場（企業等）の協力が必要となります。本年度は六十社を超える企業等の協力が得られ、実施できることになりました。表には出てきていませんが、たくさんの同窓生に陰ながら協力いただいた結果ではないかと考え、感謝しております。

今後も地域の方々の協力の下、地域に根ざした人材の育成を行い、活力ある地域作りの一端を担えればと考えております。同窓生の皆様、今後も相変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

進化・飛躍

二年次主任　柳澤　光昭

本校は総合学科として新たにスタートしてから、昨年十周年を迎えました。今年度は、全国総合学科教育研究大会茨城大会を本校と取手一高で開催しました。全国から多くの方にご来校いただき、本校と、その教育活動について知っていただくことが出来ました。

また、その数日後、茨城県高等学校単位制教育研究大会も本校で開催し、単位制高校の教育活動について、会議を行いました。また、学校内では、学校長主催のもと、教育研究委員会が発足しました。これまで歩んできた十年を検証し、新たな十年への明確なビジョンを打ち立てるべく会議を進めています。

本校は、今まさに更なる進化のため、教職員一丸となって、取り組んでいるところであります。

本校の更なる飛躍の為に、引き続き教育活動に邁進していく所存でおりますので、同窓会員皆様方の益々のご支援・ご協力をお願い致します。

二十七年度を振り返って

三年次主任　森田　繁

最高学年となり高校生活の総仕上げとして最も大切な進路選択、そして卒業を迎える一年となりました。学校生活においては、昨年度まで言動に幼さが散見されましたが、様々な場面で大人の対応が出来るようになってきました。校内の各種行事では中心的な

役割を果たし成功へと導きました。学習以上に大きなものを得た生徒の顔つきは入学当初とは見違えるほど逞しく感じました。進路選択においては、「自分に向いている、向いていない」「自分に出来る、出来ない」「楽しい、楽しくない」など過去の自分、現在の自分と対話しながら、未来の自分を形作っていきました。生徒一人一人が、これから社会とどのように関わりながら人生を生きていくか真剣に考え、進路選択することで一回り大きく成長できたことと思います。

最後に、同窓会の皆様はじめ地域の皆様のご支援とご協力に御礼を申し上げます。

同窓会給付型奨学金授与

3年1組　間山　広都
（茨城大学工学部 機械工学科）

支部長

支部	支部長
江戸崎	清水　明
君賀	朝日向　克夫
高田	岡沢　成美
沼里	宮本　博文
鳩崎	南房　孝一
木原	羽成　邦夫
安中	平野　勝雄
君原	舘野　輝男
朝日	森山　政美
舟島	平岡　博
阿見	野口　俊一
牛久	飯田　千春
柴崎	有坂　勝芳
太田	土肥　徳良
根本	沼崎　亨
大須賀	山口　勝夫
伊崎	根本　一也
十余島	山中　誠
本新	松田　丈夫
阿波	秋本　精一
古渡	内埜　新也
浮島	宮本　和昭
生板	荒井　孝司
長竿	諸岡　岡示
源清田	松本　勇
金江津	藤ヶ崎　一郎
長戸	小川　尚敏
八原	湯原　担
大宮	大野　美智子
竜ヶ崎	岩田　邦夫
土浦	猪俣　忠男
水戸	高木　昂

本部役員

役職	氏名
会長	山岡　恒夫
副会長	岡見　武夫
〃	大鳥居　良行
〃	徳田　好慶
〃	松本　博志
〃	松田　由雄
〃	及川　和浩
〃（校長）	石橋　昇
監事	根本　弘一
〃	岡田　守
顧問	中澤　繁
〃	飯塚　育男
事務局	鳥羽　勝
〃	唐澤　章
〃	黒岩　喜一
〃	糸賀　和夫
〃	菱木　明美
〃	水野　裕史

編集後記

平成二十七年度、振り返ると今年も何かといろいろあった一年だったと思います。

身近なところでは「江戸崎かぼちゃ」が地理的表示保護制度（GI）に登録されました。これは大変名誉なことであり、自慢できる事なのです。

そして、常総市を襲った未曾有の大水害がありました。本校の生徒有志によるボランティアも組織され、二度にわたって現地での片付け作業等に参加してきました。

会員の皆様にはどの様な一年だったでしょうか。（ま）

平成28年度　事業計画（案）

事業名	実施予定
校内幹事会	随　時
本部役員会 （本年度事業について）	5月下旬
本部役員会	7月下旬
本部役員会	8月中旬
研修会	8月下旬
本部役員会	10月下旬
本部役員会 （会報「古城」について）	12月上旬
会報誌「古城」編集員会	12月中旬
会報誌「古城」編集員会	1月中旬
会報誌「古城」編集員会	2月上旬
本部役員会 （代議員総会について）	2月上旬
同窓会入会式	2月下旬
卒業記念品贈呈	2月下旬
会報誌「古城」第39号発行	2月下旬
校内幹事会・本部役員会	3月上旬
本部役員会・会計監査	3月中旬
第111回同窓会代議員総会	3月下旬

広報委員